

◆TEKUTEKU2013 真壁のひなまつり企画（その2）【活動記録＋評価集計結果】◆

企 画 ■真壁のひなまつりを訪ねて（その2）～真壁伝承館の設計者をお招きして～

日 時 ■2013年3月3日（日） 11:20～15:40

コース ■TXつくば駅ー（直行バス）ー真壁体育館（11:20集合）～真壁伝承館（講演、見学）

～旧真壁郵便局～伝統的建造物群及びおひなさま見学ー（タクシー＋つくバス）ーTXつくば駅

懇親会：橋本旅館

コーディネーター ■木下庸子＋倉田直道＋藤井正男 当日ゲスト：飛毛俊浩（桜川市）（敬称略）

参加者 ■木下庸子、倉田直道、倉田洋子、山内響子、アルヴァ・アビエド、干場弓子、井手幸人、上野朋子、大竹亮、加藤栄子、栗原徹、佐藤直美、椿信吾、長澤純一、長澤たか子、橋本めぐみ、水谷晴子、村田英樹、森正代、藤井正男（以上20名）

企画主旨 ■桜川市真壁町は筑波山北麓に栄えた戦国期城下町に起源をもつ在郷町です。地区内には100棟余りの有形登録文化財があり、平成22年には茨城県で唯一となる「伝統的建造物群保存地区」（約17.6ha）に指定されました。真壁のひなまつりは、「寒い中、真壁に来てくれる人をもてなせないか」との住民の想いからはじまり、風情ある街並みの中に江戸期からのひな人形が飾られます。真壁のひなまつり企画は2011年に実施しましたが、今回はその2として、2012年度日本建築学会賞作品賞を受賞した真壁伝承館の設計者である木下庸子氏と都市プランナーの倉田直道氏をお招きして、真壁のまちづくりから真壁伝承館及び旧真壁郵便局の企画・設計に至るプロセスや保存・改修についてお話しいただくとともに、真壁の情緒、たたずまいを楽しみ、伝統的建造物が数多く残るまちなみの保存・再生について考えます。

〈参加者の意見・評価〉 ※A～D評価は、A：とても良い、B：良い、C：普通、D：良くない

1. 真壁伝承館について

（1）真壁伝承館の設計プロセス及びデザインについて【評価：5.00 内訳：AAAAAAAAA】

A：歴史資料館、図書館、公民館、ホールなどの機能をそれぞれ分散させながら、中庭や通路を介して上手くつないでいる。住民提案から共通する本質的な事柄を抽出して、専門家案で次へ進めるという住民参加の方法も卓抜であった。

A：建物と中庭などのスケール感、黒と白の2種類の壁面の対比、不規則な窓の配置などが、とてもいい。ワークショップで3グループの案の共通項を抽出する手法は、汎用性がありそう。

A：地元の方はこうした設計プロセスを通してこの施設に愛着がてるのではないのでしょうか。白黒の壁がリズムがすてきです。

A：空間構成は、単なる建物のパズルではなく、正面の長屋門を入れて、中庭を挟んで、奥に三連の蔵と細長い蔵が伸びるという町家の伝統的な配置を踏襲しているのですが、一見すると、鉄板の壁の印象が強くて、平面的なイメージを与えているところをもったいないと思います。パンフなどで、平面の写真だけでなく、航空写真とか俯瞰図とかで、空間構成を伝えるようにした方がいいと思います（資料館の模型にはありました）。公共施設のワークショップでは、一般に前向きな意見を取り入れればいいので、割にやりやすいと思っていましたが、今回は反対派の人が入ってかき乱されたようで、大変ご苦労様されたことと思います。

A：単に真壁の街並み、伝統を踏襲するのではなく、これまでにない空間の提供、新たな材料の活用といった視点を追求している。

A：住民の多様な意見を木下先生たちの手で巧みに昇華させているところがさすがでした。また、「サプリング/アセンブル」という手法が面白いと思いました。これにより、素材としては新しく、また、街並みになじんだあのデザインができたのですね。（余談ですが、夜景も見たかったです。）

A：設計上の留意点としての共通項を抽出するというワークショップのプロセスの活かし方に感心しました。地元の石の使い方等、材についてもワークショップ等の地区の方々との関わりを通して出された内容がたくさんあるのだろうと感じました。

A：実際の建物の模型を作って取り入れたという手法に関心した。

A：大竹さんや倉田先生がおっしゃっていたように、単に昔風の建物を大きくしたものでなかったのが、とてもすばらしいと思いました。市役所の方の裏話で、最終日には皆々で、「あと1日」とがんばっているというのがとても印象的でした。

A：伝建地区の街並みをどう継承し、どう新しい要素を入れていくかについてチャレンジした意欲的な取り組みと思う。地元とのワークショップを行い地元の感性を取り入れるとともに、それを模倣するのではなく、創造的な新たなデザインとして成立させるという試みがすばらしい。そして、何よりも、心地よい建築と感じた。



〈木下さんの講演会風景〉



〈真壁伝承館の中庭〉



〈真壁伝承館の図書館〉

(2) 周辺市街地との関係性について【評価：4.60 内訳：AAAAAAABB】

A：歴史的なデザインを模したわけではないのに、建物の大きさやスカイラインが街にとてなじんていた。長く低めのファード、黒と白を基調とした色彩、居心地のいい中庭など、とても効果的で、しかも多くの人々にぎわった姿が生き生きしていた。

A：町にとけ込んでいる。通しから少し入ったハの字の白い壁の中庭の空間と通りとの違いが楽しい。

A：町家のサブリックとアセンブリという空間構成の中で、鉄板の壁のランダムな窓によるモダンなデザインや最新の環境性能を入れ込んだのは、周囲の町並みの調和を保ちながら、新しい要素を埋め込んでいくという点で、大変すばらしいと思います。

A：建物自体のデザインが周辺市街地にうまく溶け込んでいます。また、敷地がオープンになっていて入りやすく、建物と道からの距離を十分に保っているのが圧迫感もなくよいと思いました。

A：入口の印象と中に入ってから印象が大きく違っていました。外から守られる安心、柔らかな境界、地区に暮らす人たちのためであることを意識して空間が作られていると思いました。

A：伝統的なイメージを崩さず、しかも近代的なデザインになっていて、よく街に調和している。

A：まさに市のランドマークになっていて、かつ自然に周辺に溶け込んでいる。

A：建物のデザインや素材は新しいが、スケールを合わせることで周辺市街地との調和が図られ、広場や中庭、施設群の配置が違和感なく溶け込んでいる。歴史的建築物が多く残る地区で、新たに建築物をつくる際、伝統に敬意を払いつつ、いかに新しい魅力を加えていくかが、将来に魅力的な市街地を形成する上での条件ではないかと思う。

B：建物のスケール感などは非常にいいが、通りに面した部分が、もっと街に対して開かれていた方がいいと思う。

B：現時点でいい関係。周辺の建物が建て替わるとき、この建物がお手本になるのかな…。



〈真壁伝承館の南側外観〉



〈真壁伝承館の北側外観〉



〈中庭での集合写真〉

(3) 旧真壁郵便局の改修について【評価：3.70 内訳：AAAAABBBD】

A：街の中心にあり、近代洋風建築という町家とは異なる重要な建物である。今回、美しく修復

され、活用が進められることは素晴らしい。裏側の低層部分の色彩や形がとてもヒューマンで楽しかった。

A：窓枠がサッシといった選択もあったとのことですが、木になってよかった。

A：小さいながらも、真壁の町にとっては記憶に残る建築をきれいによみがえらせることができて、大変よかったと思います。石造のようで、木造肌づくりというのは意外でしたが、当時の建築工法の保存という面で興味深いです。

A：改修前と比べて見違えました。延命か再現か、という話も興味深かったです。これからの使われ方に期待したいです。

A：どの時代に戻して修復するか、建てられた当初ではなく、今の人たちの記憶にある時間まで戻すという視点に共感しました。

A：住民の記憶に一番残っている郵便局時代に修復・復元したという考え方に共感できた。こうした考え方が、地域に愛され、使われ続ける大事なことではないかと思う。

B：シボ的な建築であり、後方の木造部分も含めて、非常にきれいに修復されている。あとは、どう使われるかがポイント。

B：懐かしい思いがした。

B：せっくなのに。やはりうまく使われていないと。特に2階はもったいない。

D：皆さまは高評価のようですが、私はもうちょっと夢があるほうがよかったと思います。なんか「よさ」が出ていない。



＜旧真壁郵便局＞



＜一番親しまれた時期への改修＞

2. 真壁地区の歴史的建築物等の状況及び活かし方について【評価：3.36 内訳 AABBBBBBBBBB】

A：点在・散在しつつも、御陣屋前通りには一定の集積があり、歩いて回するにはちょうどいい密度と散在度であるように感じた。半年前の状況に比べ震災後の修復も進んでおり、安心した。

A：古い建物をよく活かしている。

B：立派な門構えの屋敷、軒を並べる商家、重厚な土蔵などいくつかの形が混在しており、町並みとしての統一感はないが、中心部に貴重な建物が良く保存されている。また、生きて使おうという住民意識が伝わってきて、心強い。

B：街中には歴史的建築物がかなりたくさんあるが、十分に活かしているとは言い難い。地震で被害にあい、修復しているものも多いので、これを機にどう活用するか考えるのがいいのでは。

B：交通の便もわるいので、一泊したくなります。宿泊して夜楽しめるような仕掛け、施設ができるといいですね。黒堀等で、町並みが切れたところに連続性をもたせるとか、まだまだいろいろなことができそうですね。

B：今回、初めて真壁を訪れましたが、立派な店蔵、町家、薬医門などが多数残されていて、感銘を受けました。今後はまだ残っている看板建築の看板の撤去や道路舗装やサインなどの環境整備を充実させて欲しいと思います。国の登録文化財にたくさん指定してから、伝建地区に指定したというのも新たな手法ではないかと思います。登録文化財は指定の敷居が高くないものの、国が指定することで建物所有者の名誉を高め、伝建地区とすることで増改築の規制と助成が受けられるということで、戦略的な取組みといえそうです。

B：散在する歴史的建築物群というのは非常に興味深かった。

B：ひな祭りがあるときは色々な建物に入れる機会があるが、そうでない時期は入れる場所が少ない。真壁伝承館と合わせて歴史的建造物を生かしたギャラリーなどがあるとひな祭りでない時期も楽しめるかもしれない。

B：ひなまつりの時期は、歴史的建築物を活かしきれていないように思いました。やはり、ひな人形、売り物に目が行くので仕方ないのでしょうか。

B：震災で壊れた部分が早く適切に修復されると良いと思いますが、生活の中での修復となるので時間が必要なのだろうと、まだ、ブルーシートがあることから痛感しました。

B：その建物の前にもう少しくわしい説明板が欲しいと思うのは、住んでいる人にとっては迷惑でしょうか。



〈散在する伝統的建造物群 左から星野家、藤屋履物店、伊勢屋旅館〉

3. 真壁のひなまつりについて【評価：4.27 内訳：AAAAAABBBB】

A：旧家に昔から伝わる自慢のひな人形を飾り、来客に見せてくださるという「もてなしの心」が感じられる。それぞれの旧家が工夫して展示し、来訪者とも親しく会話をして下さるのがうれしい。箏曲の演奏や来訪者との斉唱などもあって、とても充実感があつた。

A：ひなまつりという企画は、歴史的建築物の中に入れるという意味で、真壁の魅力をPRするのに有効だと思う。この期間だけ臨時バスが運行されるというも重要。

A：あの人ごみをみると、この企画も定着してきたみたいですね。次の企画楽しみにしています。

A：家の中を公開して、先祖代々引き継いできた雛人形を披露していただき、とてもおもてなしの気持ちを感じました。正直、これだけ人が集まっていたのは驚きました。まちの人も内心自信になったことでしょう。

A：おひなさまというのは素晴らしいんですね。でも、訪問する側は楽しいけど、受け入れ側は大変そうですね。

A：おもてなしの心が街から感じられて面白い雰囲気になってる。お雛様の飾り方もそれぞれに工夫があつて面白かつた。

A：「真壁に来てくれた人をもてなせないか」という優しいコンセプトが息づいているように感じた。また伝建とおひなさまのマッチングもよく、良いアイデアだと思った。

B：テレビ放映の効果もあるかと思いますが、約10年前に比べると、人の多さに驚きました。市職員の方のおっしゃる通り、商業色が強くなっている気がしました。でも、昔と変わらず、迎え入れてくれる空気は温かかったので、そこは大事にしてほしいです。

B：「1カ月間のひな祭り期間で住民の方々がつかれきる。」というお話は心に響きました。大変なことはわかっていてももてなしてくれる気持ちが素敵でしたが、週末はボランティアとして地区周辺や役所の方々が関わる、中学生が職場体験として飲食店等の商業施設を手伝う、真壁高校の高校生を片付けに動員する等住民の方が楽になり、今後につながる仕組みが何かないかと感じました。

B：町全体が協力しているのがいい。

B：ひなまつりそのものは見ていて非常に楽しい。ただ人が多い時は、見学場所の入口、出口を作ったり、ひもを張ったりして一方通行にしたりしてくれないとラッシュアワーのようになる。



〈潮田家前の賑わい〉



〈一般の家もお雛様を展示〉



〈地元名物コロッケの食べ歩き〉

4. 歴史的建築物が数多く残る地区のこれからのまちづくりについて（観光地としての在り方、伝統的建築物や文化の活かし方、持続するための方法等）

- ・伝建地区に指定され、登録文化財も多数あることから、町並み保存は軌道に乗っているように見えた。これらを活かして経済的な持続性をめざすことが課題であろう。ひなまつりの集客はやや多すぎて、単なる観光イベントになりかけており、これを通年に分散させることが必要。また、来訪者

とお店の人が（観光客と観光業者の関係でなく）個人的な関係を保つことが、この街の魅力の源泉であり、大切にしてもらいたいもの。

- ・まちづくりについては、地元の人たちがきちんと議論してどうすべきかを決めてゆくべきだと思う。私としては、一般的な観光地を目指すべきではないと思うが・・・
- ・若い人がその地で働けるような仕事を創造することが重要だと思います。
- ・これから、通年で、まちの活性化をどうしていくのかというのが今後の課題ですが、首都圏からの日帰り客を呼び寄せるには、やはり、花の名所とかおいしい食べもの、おみやげなどを充実させていくのかなと思います。こうした、まちの人のがんばりを行政がサポートしていくことが重要かと思っています。まち歩き用のパンフも、店蔵、町家、門などまちのいいところをイラストで紹介しつつ、食事処やみやげもの屋もわかるようにするといいでしょう。（私が以前在籍した奈良県庁でも「なら・まちづくりコンシェルジュ」がパンフづくりのお手伝いをしていましたので、ご参考まで。
<http://www.pref.nara.jp/22502.htm>）
- ・筑波山など近隣の名所と一体となったツアー、滞在型のメニュー（〇〇の体験）などで地域的ハンデを克服できれば。町の人たちが無理せず外来者を迎えられれば何より。
- ・ひな祭りの時はバスが増発しているが、そうでない時期はアクセスが難しい場所にあるので、アクセス方法やひな祭り以外に真壁伝承館の展示部門と合わせた企画等があったらいいと思う。
- ・職員の方がおっしゃったように、雛祭り時期の集客は十分できていて、既に飽和状態なので、年間を通して真壁に来てもらえるようにするステージにあるかと思っています。観光客を分散させることで、まち全体としてのキャパシティに対応できるかと思っています。それには、季節に関わらず存在する歴史的建築物をハード面として、季節のイベントや地場産業などと絡めて活用する必要があるかと思っています。
- ・イベントがあるのは大変有効。ただし、イベントのときだけ賑わうのではない通年の人の誘致が難しいと思った。
- ・あの地図の番号を規則正しくして、見つけやすいようにしてほしい。模範的な順路を示してくれて、その通りに歩けばほとんどすべてめぐれるAコース、お急ぎの人用のB、Cコースがあると助かると思う。
- ・この期間に観光客が集中し過ぎるのは確かに課題ではあるが、何かしら楽しむ要素がないと人が来ないことも事実であり、伝建とマッチする企画が秋くらいにもう一つあると良いのではないかなと思った。

5. 真壁で印象に残った場所（いくつでも）

- ・真壁伝承館：機能もデザインも素晴らしい。真壁の街の魅力と活力を増すことだろう。潮田家：大混雑の横で、店の人と近所の方が歓談をされているのが実に自然で良かった。安達屋：震災被害で屋根を修復中だったが、店の奥まで並ぶつるし雛は壮観だった。橋本旅館：奥の座敷に見物客を迎え入れ、箏曲の演奏まで楽しめたのには驚いた。
- ・はしもと旅館：琴の演奏とひなまつりの歌、良かったです。潮田家住宅：修復中で壁の構造がよくわかるので非常に面白かった。
- ・伝承館と増田酒店に挟まれた通り。通りのリズムが代わり空間的に面白い。
- ・登録文化財の石碑、二階の窓辺のおひな様（とても印象的で絵になる。）、潮田家の格子の補強壁（おそらく檜材）と蔵の竹木舞の太さ（竹半分!）、町家の軒を支える張り出した梁、町家の草履屋のショウインドゥ（なぜか Ladys Shoes という英語表記）、橋本旅館の近くの店蔵の立派な構造（特に太い梁）
- ・安達家のおひなさま！散在する蔵づくり
- ・真壁伝承館、公園や中庭含めがこういった時期に思ったよりも使われていることが良かったです。
- ・お雛様を二階にかざってあった家（場所名忘れまし）／醤油・味噌を扱っていた商家：荷物を上げ下げする滑車があったという吹き抜けを上手く利用して飾っていたので。／真壁伝承館：イベントの影響もあったかと思いますが、人がたくさんいて活気があり、地域で愛着を持たれている感じがしたので。
- ・御所駒瀧神社：真壁城と鹿島神宮を結ぶ場所に立地したという不思議。茅葺きのお雛様がよかった。陣屋通り：浅野陣屋があったとは知らなかった。細谷家：豪華な長屋門。吉田松陰が休憩したという。
- ・震災の傷跡がまだ色濃く残っているのに胸が痛みました。
- ・真壁伝承館はもちろんですが、安達家、星野家：歴史的建築物の質の高さとおひなさまの展示が美

しかった。橋本旅館：琴に合わせた歌や懇親会でいろいろとアイデアを出していただいて、地元の温かさを感じた。



〈安達家のお雛さま〉



〈旅籠ふるかわの窓に飾られたお雛さま〉



〈星野家の 100 年前のお雛さま〉



〈橋本旅館の階段のお雛さま〉



〈琴の伴奏でうれしいひなまつり合唱〉



〈橋本旅館での懇親会〉

6. その他自由意見

- ・とても充実した企画でした。設計された木下先生の解説、倉田先生のまとめ、市の飛毛さんのお話しにより、建物や町並みの理解が深まりました。ありがとうございました。そして、周到的な準備をして下さった藤井さんに感謝します。また真壁へ行きたいですね！
- ・ひなまつりを見るだけでなく、木下さんや倉田先生のお話も伺えて、非常に充実した企画だったと思います。帰路、夕ヶからバスに乗り継ぐという発想は、なかなかエークでした。
- ・以前、雪で人通りが少ない真壁のひなまつりなに tekuteku で歩いた際、店のおかみさんたちのもてなしに感激し、真壁のファンになってしまいました。人が多いところしたもてなしに接することができないので、イベントがない時が真壁のほんとの魅力に接することができるのでは？
- ・大変充実したよい企画に参加させていただきありがとうございました。
コーディネーターの藤井さんお疲れ様でした。今後またまに参加させていただきますので、よろしくお願いいたします。
- ・街のイベントと合わせて真壁伝承館を見られて、よかったです。
- ・以前真壁を訪れた時は、まだ真壁町でした。今や市の一部に組み込まれてしまいましたが、「真壁伝承館」という建物に、【真壁】の名が入りよかったですと思いました。まだまだ真壁の知らない魅力があると思うので、次に訪れるのが楽しみです。（余談ですが、雛祭りの歌を何十年振りかに歌いました。歌詞が4番まであるのをはじめて知りました）
- ・楽しかったです。懇親会は参加できず残念でした。
- ・東日本大震災の爪痕がまだ残っており、被害の大きさを物語っている。そうした中で、これだけのイベントを見事に成功させたE初ギ-は素晴らしいと思った。今回の企画は、木下先生の話が特に良かった。
- ・木下先生のお話が聞けてよかったです。とても素晴らしい所でした。また行ってみたいです。
- ・（企画者より）木下先生、倉田先生、飛毛さん、ADH の山内さん、干場さんのご協力により、密度濃い充実した企画とすることができました。ありがとうございました。伝建地区の保存だけではなく、新しい要素や考え方をいかに組み入れてまちの魅力を高めていくかについて、示唆に富む企画になったと思います。ちょっと時間が厳しかったのが反省点です。（M.F）